２０２０年度　入門講座

　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　 2021/2/21(日)

**第三十三課　罪とゆるし**

導入；あなたにとって罪とは何でしょうか？

　日本人の罪意識

日本社会の「罪」理解には、神道的、仏教や儒教的教義など様々な要素が入り混じっている。

神道：罪、善悪に対して美醜より汚れの方に重点、「禊ぎ」、「祓え」によって罪や汚れもすべて解消、除去されると考えられている。

仏教：絶対者がいないので善悪の基準もない仏教でいう「罪」とは、人間が犯す特定の罪というより、人間だれもがその根底にもっている無明性、すなわち、人間の欲望や執着心などのさまざまな煩悩の根本にある人間の本性が真理に明らかでないことを意味する。

　　　　　　　仏教用語に「罪」という語はない。

恥の文化：「罪と悪」を問題にする以前に、「恥」という概念が大きな場を占めてきた。

　　　　　　　　自分に対する世間の目を強く意識し、羞恥心が行動の原動力となり、最高の徳目は「恥を知ること」、「恥を知る人」が徳の高い人とされる。

Ⅰ　愛されている罪人

　「罪の増し加わる所には、恵みも満ちあふれた（ロマ１5:20）」

　宗教とは神と人間の関係。神のなさることと人間がすることのどちらに焦点を置くかで宗教のタイプが違ってくる。

＊人間が行うことを強調する宗教

人間の行うべき業、守るべき掟、果すべき義務、人間が執り行うべき儀式が重視される。

　　罪がどんなに悪いものであるかを力説し、罪を償うことによって恐ろしい神をなだめることを

教える宗教。

＊神のすることに重点を置く宗教

神のことば、神の行い、神の恵み、愛、慈しみが強調される。

　 キリスト教は人間の行いではなく、神の恵みを強調する宗教。罪自体は悪であるが、罪を犯して

　 しまった人間は相変わらず愛しておられる神。（ルカ15・4～7よき羊飼い、ルカ15・11～24、）

　 罪人の改心は祝い。

罪と悪のテーマはとても重いものである。しかし、罪と赦しを以上のように理解すると、神に赦しを求めることは、神の慈しみとの嬉しい出会い、生きるエネルギーを与えてくれる。

神の赦しは常に罪より大きい。だからパウロは言う。「わたしが弱い時こそ、わたしは強い。（2コリ12:10）」

**Ⅱ　キリスト教における罪**

1. 教会の教えによる罪の定義
2. 行われる行為が客観的悪であり、事柄自体が重大であること。
3. 本人が、自分の行為は客観的、道徳的に悪であると気づいていること。
4. 自由意志による同意。社会や学校、家庭のせい、個人の責任あいまい。

一般的には、倫理的、道徳的、法律的な罪が考えられ、法律を破ることによって生ずる客観的な罪をいう。しかしキリストが教えた罪理解と一般社会の罪理解は違う。

2.　教会が教える罪の定義　（『現代世界憲章』13章）

「人間は神によって義の中におかれましたが、歴史の初めから悪魔に誘われて自由を乱

用し、神に対立して自分の完成を神の外に求めた。（中略）人間は、神が自分たちの根

源であることを認めず、拒否し、また自分の究極の目的への当然の秩序ならびに自分

自身と他者と全被造物に対する調和を乱したのであります。」

Ⅲ　罪の本質

神から与えられた自由意志を使って、自己中心的な傾向に自分を委ね、意識的に

神と人々への愛を拒否すること。

キリストが説く罪理解；

* 「放蕩息子」（ルカ15：11－32）

罪は、自分から神との関係を断つこと、つまり神と人との関係を損なうこ**と**なのである。

人と人とを繋ぐ絆を断つこと⇒罪は誰かを見捨てるという意味

＊「罪を許された女」（ヨハネ8：1－11）

姦淫の罪は人間関係を破壊する重罪で死刑の判決が言い渡された。

　　　「自分は罪をおかしたことがないと思っている人がいたら石を投げよ」

イエスの意表を突く発言で、他人に向かっていた思いが逆転する。

社会の中でも相手に向かって石を投げる行為がないだろうか？

「自分に罪がないと言える人は自らを欺いており、真理はわたしたちの内にありません」

（Ⅰヨハネの手紙１：

Ⅳ 「悔い改めよ。神の国は近づいた」（マタイ4：17）

悔い改め；キリスト教のメッセージの中心

　　　罪を全く感じない人は悔い改めることが見つからない。基準は良心である。

　　　罪意識の欠如は国民性や民族の文化だけの問題ではなく、現代の一つの傾向ともいえる。

１．罪を冒した時の態度の比較

* 1. イスカリオテのユダ（マタイ27：3~10）

イエスを銀貨30枚で売って自死

* 1. ペトロ（ルカ22：54~62）ペトロの否み
	2. ダビデ（Ⅱサムエル11:1~12,13, Ps.3,4,9~11）

　　　　　　ナタンのたとえ話（１～４）に対するダビデの反応。たくさんの羊や牛を持っている男

が、客人をもてなすために貧しい男のたった一匹の子羊を取り上げたという話。

　　　　　　与奪権を握っていた王が、ナタンの忠告を受け入れた。神の前で犯した罪を率直に

認め、後悔した。詩編の中で最も美しい**詩編５１「ミゼㇾㇾ」**を作った。

　　　人間関係（夫婦）の関わりを通して成熟する人と停滞しているように見える人がある。

　　　　　自分も悪かったと思えるか、自分は全く悪くなく、相手が変わるべきだと思っているか。

1. **ゆるしの秘跡**

「わたしは正しい人を招くためではなく、罪びとを招くために来た（マタ9:13）」

　　『聖霊を受けなさい。だれの罪でもあなた方がゆるせば、その罪はゆるされる』

（ヨハネ20/22～23)

　　　　この罪をゆるす権能権限を委ねられたのは使徒たちと、その任務を受け継ぐ司教

司祭である。

**A「ゆるしの秘跡」は、洗礼後、罪を犯したとの自覚を持つ人のために神との和解、**

**人との和解をもたらす秘跡である。「ゆるしの秘跡」によって大罪が許される。**

キリスト教の本質的教えは、イエスの死と復活さらに聖霊のおかげで、人間の一切の罪が許されるということにある。心を慈しみ深い神に開き、信仰、信頼、痛悔、神に従いたい望みがあれば、神はわたしたちをあらゆる罪から清めて下さる。世の終わりまで続く神のゆるしを表すのが、「ゆるしの秘跡」である。

　　罪のゆるしをもたらす根本的な秘跡は「洗礼」である。洗礼はキリストに従おうとする人生の旅

　　の出発点。洗礼を受けることは、神を大切にし、他の人を自分と同じように、ちょっぴり自分よ

り大切にする生き方。しかし、洗礼を受けた後でも、わたしたちには相変わらず、この愛に生きることを妨げる様々な誘惑が起こる。

B**『わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている』**（ロマ7:19）

わたしたちは皆、迷いの中で生きている。一方では愛と真実を求めながら、一方ではそこから遠ざかろうとしている。このような分裂や矛盾を自分の中に感じながら生きている。

７つの罪源；傲慢、貪欲、邪淫、嫉妬、怠惰、憤怒、貪食etc

個々の悪い行為だけの問題ではなく、行為を通して見えてくる自分の醜さや弱さが問題。

**Ｃ　罪の種類**

a「死に至る罪」（Ⅰヨハネ5・16）つまり**大罪**とは、人を神と結ぶ愛の絆を決定的に断ち切ってしまうような思い、ことば、行い、怠り。愛に反する根本決断をした人の心に聖霊は宿ることができない。Ex.殺人、姦通、人を徹低的に憎んで相手の滅びを望むこと。人の幸せを不当に壊してしまうことなど…・

**b**「日常の罪」つまり「私たちは皆、たびたび罪を犯す」（ヤコブ3・2）と書かれているよ

うな日常の罪で、「小罪」と呼ぶ。小罪とは、神に向かうという根本的な方向性はある

が、人間の弱さや不注意の為、小さな嘘、不親切、暴飲暴食、怒りから子どもを叱った

りすることなど。祈りの怠りも含む。

**Ｄ　神の愛に立ち戻ること。**（マテオ4：7）

 自分の弱さ、失敗、至らなさを認めることは苦しいこと。苦しいから悔い改めることができ、

自分の罪を認めて、神の愛に立ち返ることができる。

**ゆるしの秘跡は、放蕩息子のように罪を悔い、神との和解を願い、すでに神に**

**立ち返っていることを、目に見える形で体験すること。**

キリストの代理者である司祭に１対１で告白し、罪を許してもらう。（年一回～月一回）

　　 自分のダメな所、隠しておきたいことを神父の前で言葉にする、恥ずかしさや抵抗がある。

恵みをいただきに行くのだと考え方の視点を変えるとよい。後で平安な気持ちさわやかさ。

欠点が見えてきたらうまくいかなかった事柄の糸口が見えてくる。自分にどういう問題があるのか、気づき物事が打開していく。

1. 準備の祈り　まず自分の罪に気付くために、聖霊の助けを願う。
2. 良心の糾明（振り返り）

「肉の欲、目の欲、生活のおごり」（Ⅰヨハネ2・6）がはびこっている。

「肉の欲」＝泥酔・貪食・姦淫・わいせつ・好色・敵意・ねたみ・争い・怒り・

利己心・不和・怠慢

　　　　　　　　「目の欲」＝所有欲。切りがない所有欲は愛を中心とした生き方から離れる。

　　　　　　　　「生活のおごり」＝優越感、劣等感（人と比較し相手を踏みにじったりねたんだりする。傲慢な人は自分の子としか見えない。

 自分の歩みがどのような束縛によって自由を失い、真理から離れたか。

自分の決まったものの見方、価値観、動機はどんなことだったか。

自分の個人的弱さによる罪と同時に社会的な響きを持つ罪も。

助けとなること：日々の振り返り（良心の究明）を続けること。一日を振り返り、

\*感謝したいこと（どこで神であったかに気付く）

\*なぜ心がなえるのか、痛んでいるのか…足りなかったことに気付いていく。

告解のための罪捜しに苦労する話をよくきく。確かに法や掟に背くような罪は犯さない。

では何を基準にするのか、神の愛と他者への愛に背くという図式では、客観的な基準とは言えないから難しいのかもしれない。自分と神との関わりのレベルはあくまでも個人的である。

「祈りを怠る、ミサに行かない」。これらが本当にあなたの問題だろうか？仕事や家庭の悩

みだろうか？本人の問題に触れず通り過ぎている場合が多い。個々の悪い行為だけの問題で

はなく、行為を通して見えてくる自分の醜さや弱さが問題なのである。

光の中に立てば埃がいっぱい見えるように、神の前で自分の小ささを見つめながら、神の愛に満たされていく、これが告解の恵である。

1. 悔い改め（痛悔）―　これはゆるしの秘跡の中で大切なところ。

　神の愛に応えられなかったことを悔やみ、心から神に立ち返ること。

「神さま、わたしはこういうことをしてしまいました。後悔しています。どうぞゆるしてください。もう悪いことはしません」と素直にお詫びをする。こう思うことによって人は既に神と結ばれている。神と一緒になることから罪からの解放は始まる。

＊自分の罪の根源になっているものは何か、これが見えてこないと同じ傾向が繰り返される。

1. 罪の告白　「ゆるしの秘跡の小冊子」参照

前の告解がいつだったか告げ、素直にお詫びをする。大きな罪であればはっきりと言い、日

常の罪であれば特におわびしたいことをいくつか話す。

　　　　　全ての罪を言わなければならないか？本当に重大な罪についてだけ言う。日常的な罪であっても、キリストの慈しみを一層味わい、愛に成長するために有益な秘跡である。

告白は絶対に秘密が守られる。

1. 司祭の指導（不可欠な要素ではないが司祭は必要に応じて与える。）

罪の告白を聞いた司祭はイエスの代表として短い助言を与え、償いとしてすべきことを指示する。

古代教会では罪の償いとして長い断食など厳しいものだったが、今日では短い祈りをとなえる程度。

1. 罪のゆるし　―　この秘跡の中で最も大事なしるしである。

 　　　　　「*全能の神、あわれみ深い父は、御子キリストの死と復活によって世をご自分に立ち返らせ、罪のゆるしのために聖霊を注がれました。神が教会の奉仕の務めを通してあなたにゆるしと平和を与えてくださいますように。わたしは、父と子と聖霊のみ名によって、あなたの罪をゆるします。*」という美しい祈りによって、　神のゆるしが司祭を通して目に見える形で与えられる。

罪の克服によって自分自身の本来あるべき姿を取り戻すことができる。恵みを受ける機会として理解するなら、「ゆるしの秘跡」は人生に力を与えてもらえる、大切な宝である。

1. 償い；罪の罰という考えではなく、罪から解放され、神と和解したことを

感謝し、喜びのうちに決意を表すもの。償いは過去の傷跡を癒し、未来に向かった生活を改善させる。罪をゆるされても、古い人、過去の間違った生き方から解放されるには長い道のりがある。

「信者はだれでも分別できる年齢になっていれば、少なくとも年に一回は、罪を忠実に告白する義務がある」（教会法９８９）

1. 共同回心式

　　　　恵みも罪も社会的な面を持っており、個人の行為は教会や社会全体に何らかの影響を及ぼしている。回心に際しても、人は一緒に神のことばを聞き、共に見直し、互いに祈ることによって助け合うことができる。このために、個別告白を伴う共同回心式が行われるようになった。

５．現代社会における「悪」の問題と罪意識；（罪の社会的広がりを持つとは？）

環境破壊（地球汚染、資源の無駄遣い）・搾取・差別・組織的不正・情報操作による虚偽・利潤優先・権力の絶対視・組織的テロイズム・・・

戦争・飢餓・環境破壊など巨大な悪、国家的世界的規模での問題が頻発する現代社会において、個人の責任はどう問われるのか？意識的に公害を起こそうとする企業はまずない。大気汚染に加担しようとして車を運転している人間もいない。人間の悪意をどのくらいふくんでいるのか？

人は互いに影響し合い、連帯性を持って生きている。人類史とともに始まった混乱は時代から時代へと、人間が罪を重ねていくにつれて増大していく。現代社会における「悪」の問題に対して、わたしたちは無関心であってはならない。単なる個人主義的次元に終わらないよう健全な罪意識を持つことが大切である。自分が行った悪がどんなに小さなものでも、共同体や社会を傷つけたことになり、人類社会を何らかの形で破壊するものであることを認め、連帯していくことが求められる。

\*罪のあがない

　　「神はこのキリストを立て、その血によって信じるもののために罪をあがなう供えものとなさいました。」（ロマ3：25）

「神はキリストを通して私たちをご自分と和解させ、また和解のために奉仕する任務を私たちにお授けになりました。ですから・・・キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神は私たちのために罪となさいました。私たちはその方によって神の義を得ることができるのです。」

（Ⅱコリ5:18,20-2）

聖書は罪のあがないを、人間から神に向けた行為としてではなく、神の賜物として示す。

　\*免償とは何か：　免償とはすでに赦された罪の償いの免除である。

償いは過ちによって相手に与えた損害に対するものである。しかし、他者の人生に深い傷を与え、もはや取り返しのつかないことをしてしまった場合、人間には償いは絶対不可能である。したがって限界を持った人間は、罪の許しと同時に、その償いもゆるしてくださいと、謙虚に願う必要がある。この人間に不可能な償いを果たしてくださったのがキリストである。「教会はキリストのゆるしの宝からできるだけ多くを与えようとする。私たちは何かをすることによって自分の善意を実現する。免償は私たちの努力を免除することではなく、それを促すものである」。（森一弘『免償とはなんですか』）

カトリック教会の宝の一つは「赦しの秘跡」である。司祭の口から「父と子と聖霊のみ名によって、あなたの罪をゆるします。」という言葉を聞くとき、本当にゆるされた解放感と大きな喜びを味わう。

ゆるしの秘跡において、司祭は神の代理者である。司祭は神の代表者として行動する。告白によって得たいかなる知識も決して他言してはならない。